

# 星降る駅

~love your life~



松口 恵実梨  
建築設計計画研究室

敷地面積：5224.5㎡

延床面積：5376.4㎡

1階：3937.9㎡

2階：1134.2㎡

地下：304.3㎡

階数：地下1階

地上2階

構造：木造

一部鉄筋

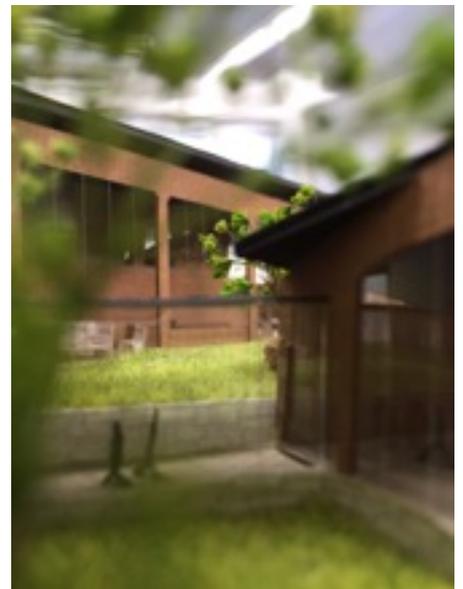
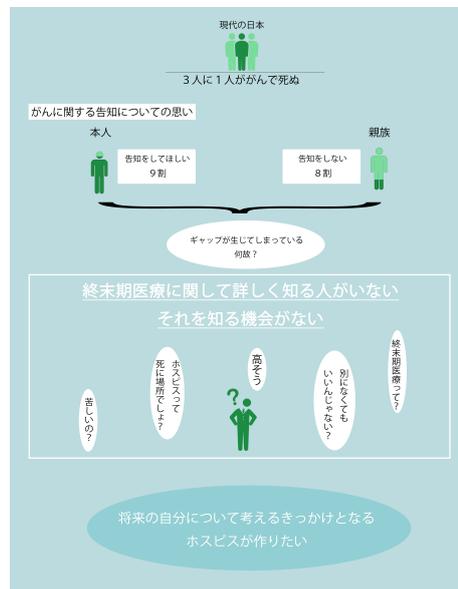
コンクリート

## □コンセプト

高齢化していく現代。医療技術も進み、それに伴って死の在り方も多様となり、死に関して考える時代となってきている。

中でも日本人はガンで死ぬ人が多い。ガンになってしまった場合、患者は9割告知してほしいと言うのだが、実状として2割しか告知されることはない。

その原因として終末期医療に関して詳しい知識を持っていない、または知る機会がないのだと考える。死の在り方に関して深く考える事のできる時代だからこそ、それを知る施設としてホスピスを作りたいと考えた。



## □プログラム

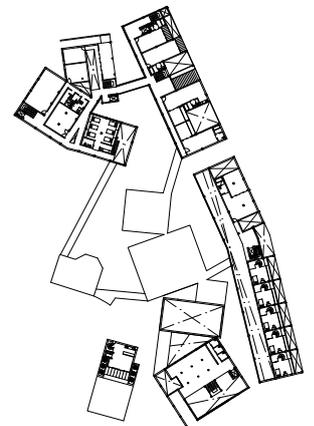
中心に共用で使う食堂や多目的ホール等が配置され、それを囲むように病室一住戸が置かれている。住戸は複数人で暮らす住戸、共同で暮らす住戸、個人で暮らす住戸があり、そのいずれも充実した最後を迎えられるように多様性を考慮した。

また公園側に一番近い部分にカフェを設置し、施設を利用する人はもちろん、公園を利用する人にも利用してもらい、交流は勿論、ホスピス認知のための一役を担っている。

## □デザイン

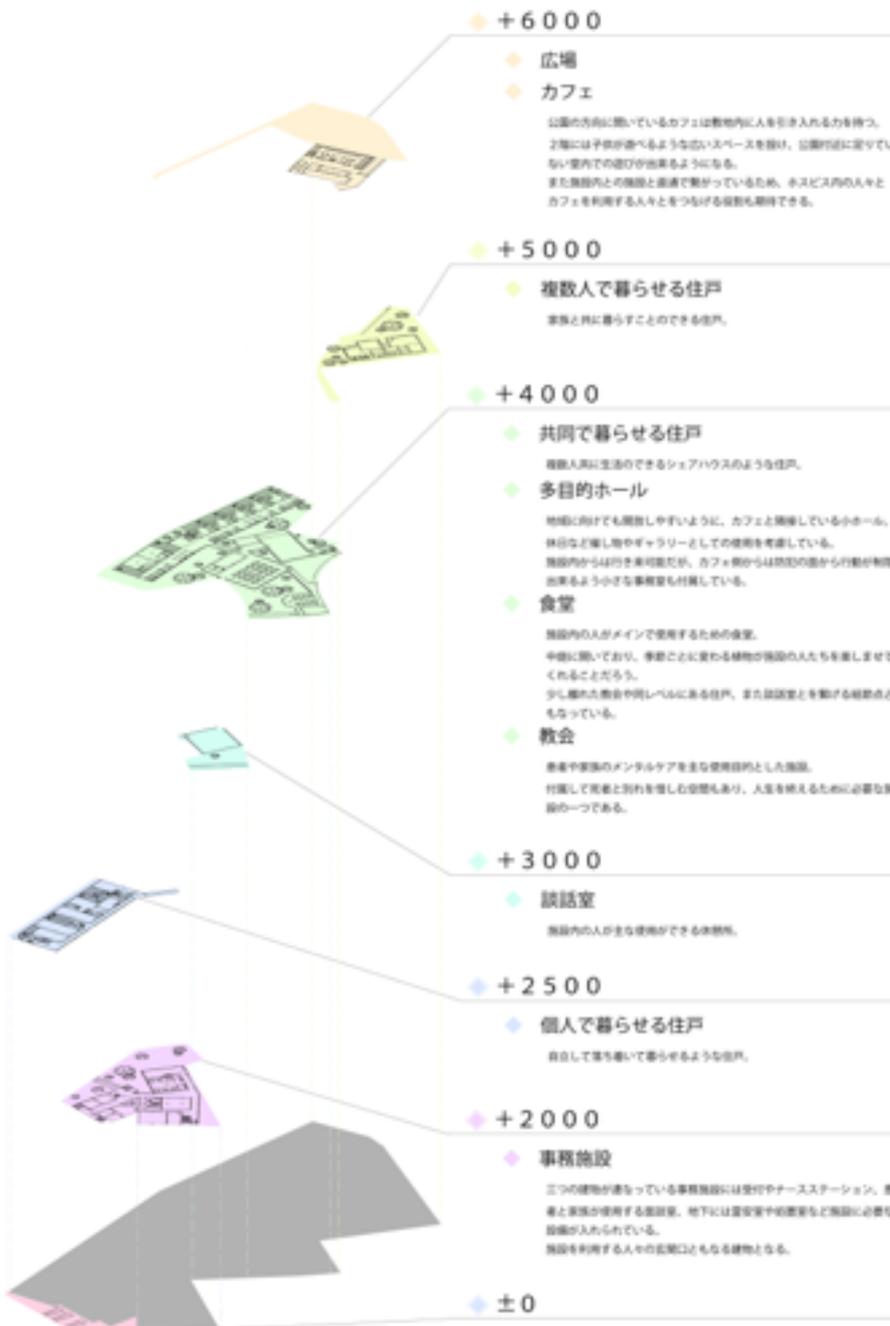
建物をバラバラに配置することによって隙間ができ、新たな魅力が生まれる。そこに角度をつけることによって多様な空間が生まれ、段差をつけることによってより多くの視線の違いが生まれた。

またそれぞれの空間が駅舎と考えて設計を始めた。これからの終着点へ向かう人もいれば、どう向かうのか考える人の為の駅もある。そんな駅が集まり連なっているのがこの形の概要である。屋根も駅舎をイメージし、湾曲させた。



1階平面図 兼 配置図

2階平面図



## ◆ 家族で暮らせる住戸

### ◆ 複数人の身内と暮らす

→主に家族と暮らすことを想定して作られた住戸である。自宅での緩和ケアが難しいと判断した患者を含む家族が自分の家のように一緒に最後を共にすることもこれからは考えていかなければならない。高齢者だけでなく子供も対象となり、ここで生活をし、近くの羽根木公園まで足を伸ばして小さな友達をすることもできる。

### ◆ 複数人の身内と暮らす

→それぞれに設けられた庭はリビングに面して設置されている。家族や一緒にいる大切な人々と過ごす空間は季節によって色を変える樹木と共に穏やかに暮らせることだろう。

## ◆ 複数人で暮らせる住戸

### ◆ 仲間と時間を共に最後を過ごす

→1人で最後を過ごしたくない人たちの為に作られたのがこの棟だ。それぞれの住戸には必要最低限の生活スペースを設け、廊下に当たる部分を広く取り、そこを共同キッチンや共同リビングとして活用する。

### ◆ 高低差を生かす

→この敷地の高低差を生かして一部の住戸には半地下の様な空間を設けた。そうすることによって囲まれて安心できる空間となった。秘密の地下のような空間に設けられたテラスは個人が大いにアレンジし、過ごしやすいオリジナルのテラスが出来上がることだろう。

## ◆ 個人で暮らせる住戸

### ◆ プライベートな空間で最後を過ごしたい

→最後の時こそ自分の好きなことをやる為には自分のプライベート空間で過ごしたいと思っている人も少なくないだろう。この住戸は同じ形をした住戸がほとんどなく、一人一人独立した間取りを持つ住戸は住む人によって姿を変えるだろう。

### ◆ 異なる景色を楽しむ

→テラスも住戸別に異なり、見え方、楽しみ方が異なってくる。

